

七月一日

まあ、なんと月日の経つのが速い事か。アツという間に六月は終わった。消えていったという感じだな。九時三〇分J・グラライター講義。ヨーロッパの建築文化と日本のそれとの相違について。

一、日本には遺跡が無い。二、ヨーロッパのモダニティはアヴァンギャルドによって成立したが、日本のモダニティはアヴァンギャルドの不在の中でなされた。三、ニヒリズムに関しての態度の相違、という様な事を中心に二時間にわたるものであった。グライターのレクチャーはニチエ研究者であることから、らせん状に時間が現在、過去、未来とレクチャーのテーマ自体が動いているのが面白い。昼食は冷しなめこそば。十三時松尾建設、新木場物流センターの最終デザインについて。十五時迄。十五時過プロダクトミーティング。十七時半大学発。十八時半世田谷村に戻る。塩野君よりとくそくされている石山画文集のまえ書きを書く。二十一時過修了。キレイな白い色の月夜である。

七月二日

八時起床。さわやかな朝だ。少し計り体に力があるようなので銅版画と取り組む。調子が出てきたところで休止。十時研究室。

高山夫妻八大建設契約に立ち会う。十二時過想いたって世田谷村へ。十四時迄銅版製作。宗柳で昼食。真夏のような陽光で気持ちよい。

高山夫妻は新世代のクライアントだ。ドアノブモインターネット・オークションでアンティークなものを購入しようしたり、バスタブもドイツから気に入ったモノを取り寄せようとしたりで、正直、こちらは仲々、その相談に一つ一つ乗るのは大変なのだが、良く良く考えてみれば、このやり方は私の持論としてきた事なので、逃げるわけにはいかないのだ。

十五時前烏山発。十六時田園都市線南町田森の学校定例会議。古木理事長さん達と会食。二〇時半新宿にてJ・グラライター教授と会食。今日二度目の夕食であるが、何とか頑張る。グラライターとはニヒリズムに関して彼の持論である遺跡とメランコリアに関して、その他私の貧しい語学力の枠はあつたが、実に面白い会話を交わした。日本人同士では仲々出来ぬ話だったような気がする。李祖原、J・グラライター共に、友人として広がりのある地平を感じさせてくれる。J・グラライターは十一月より、ワイマールのバウハウス大学で再びゼミナールを持つ事になったようだ。二年間早稲田の建築学科に教授として腰かけてもらったのだが、それはそれで良かったのではないか。アーキテクチュアル・セオリー・センター in ヨーロッパをバウハウスにツインマーマン学部長と創立するプログラムが実現されるようだ。セオリー・センターか、と…… ツインマーマンバウハウス元学長のヨーロッパ的ポリテイカル・ストラテジーの骨格を感じたね。アジアには特に日本にはこれが全く欠落しているんだナア。理論センターという構想が日本には無い。今の日本に欠けているというよりも全くイメージとしても構想されていないのはこの骨格なんだけだ…… 駄目なんだろうな。十年後にワイマールで新しい建築理論の骨格が構築される事に期待しよう。二十三時、明日、ベルリンに帰るJ・グラライターとサヨナラして、二十四時頃世田

谷村に帰る。

今夜の月は昨日の白い透明な表情ではなく、黄褐色に混濁している。日々、月の色も変わっているのだナア。全て同じところにとどまっていない。大版銅版画一時過彫り上げる。